

## 特定外来生物 オオキンケイギク

オオキンケイギクは、北アメリカ原産のキク科の多年草です。緑化や園芸などでよく利用され、日本各地に分布を拡大してきました。

土手や川原などでよく見られますが、日本に昔からいた植物よりも旺盛に繁殖し、在来種を駆逐してしまいます。

そのため、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律によって、**特定外来生物**に指定されています。



## オオキンケイギクとはこんな植物

5月から7月ごろにかけて、**黄色く目立つ花**を咲かせます。花はほかのキク科植物と同じように、中心部に管状花、その周りに舌状花があります。形としては、コスモスの花に似ています。



夏から秋にかけて、種子を実らせませす。種子は**風**や**流水**に乗りながら散布され、分布を拡大していきます。  
5mm  
舌状花  
管状花  
丸みがある  
裂片または小葉  
対生する  
葉

種子の実の大きさ

草丈は50cm~70cmくらいになります。下の方につく葉は鳥の羽根のように枝分かれするものや、深く切れ込むだけなど様々な形をしています。茎の同じ場所から対になって葉が生えています(対生)。



## オオキンケイギクの咲く場所

土手や川原、道路の法面、空き地など開けた場所でもよく見られます。現在、**日本全国で分布**が確認されています。

かつて緑化のために積極的に散布された場所もありそのようなところでは、ほぼオオキンケイギクのみが繁茂し、花期には一面が黄色いお花畑のようになっていることもよくあります。

繁殖力が強く、在来の植物を覆ってしまったり駆逐してしまいます。川原に依存して生きる希少植物にとっては**非常に大きな脅威**と言えるでしょう。

オオキンケイギクに脅かされるカワラサイコ<sup>1</sup>とカワラハハコ<sup>2</sup>



## どうすればいいの？

防除に当たっては丁寧に抜き取りを行い、翌年種子の発芽や根茎からの再生が見られないかを確認し、確認されたときには、それが見られなくなるまで続ける必要があります。一方、刈り取りを行う場合は、**残された根茎等から容易に再生**をしてきますので、完全に駆除するためには抜き取りと組み合わせる必要があります。また除草剤の使用に当たっては、他の植物への影響も予想されるため、慎重に行う必要があります。



抜き取ったその場で**数日間天日**にさらして乾燥させるなど、枯死させたうえで運びましょう。

外来生物法により、栽培したり、生きたまま運んだり、野外に撒く・植えることなどが禁止されています。刈り取った茎や花は運んだりしても大丈夫ですが、**種子や根は再生・繁殖能力を持っているため、規制の対象**になります。また花は、花瓶に生けておくだけでも種子が実ることがありますので、注意が必要です。

駆除したオオキンケイギクを移動させるときは、飛散防止のため、**ビニール袋などで二重に梱包**して運ぶ必要があります。

刈り取り・抜き取りなどの駆除作業は、種子の実っている時期に行くと、逆に種子を飛散させてしまう可能性があります。**駆除するなら、花の咲く前**にしましょう。

もし庭先にオオキンケイギクが生えている場合は、ご自身で駆除をお願いします。公園や川原、土手など公共の場所に生えている場合は、その管理者と相談しながら駆除を進めていく必要があります。地域の方の参画を得ながら、地域ぐるみの駆除活動が実施できれば、非常に効果的と言えます。